

第3学年 国語科指導略案

授業者 教諭 村上 峻

日 時 令和元年7月1日（月）3校時

場 所 3年1組教室

1 授業について

単元名	インタビューをしてメモを取ろう（本時3/4）
本時の目標	話のまとまりに気を付けて、大事なことを落とさずメモに取りながら話を聞くことができる。
児童の実態	実態調査では、「スピーチやグループの話合いのとき、相手の考えをしっかりと聞いているか」という質問に、本学級の児童全員が肯定的な回答をしている。一方で、話を聞くときに「話し手の声が小さい」「内容や使われている言葉が難しい」などの難しさを感じている児童が多いという結果も得られた。「話し手の声が小さい」と感じる要因としては、「自信がない」「普段から声が小さい」といった話し手の要因だけでなく、話し手以外の児童が「騒がしい」「批判的な反応を示して、話し手を萎縮させている」といったことが考えられる。「内容や使われている言葉が難しい」と感じる要因は、聞き手の「理解力が低い」「語彙の知識が少ない」、使われている内容や言葉が「既習事項の範囲を超えている」「児童の生活とかけ離れている」ことなどが考えられる。 実態の観察では、活動への関心や目的意識が低いことなどから、相手の話を聞くことに集中できていない様子が複数の児童に見られた。また、直前に聞いた話の内容に関して教師が簡単な質問をしても返答できない児童が見られた。このことから児童が集中し、目的意識を持って話を聞くことができるような工夫を行う必要があると考える。
本時の授業づくりの主な手立ての工夫	①授業展開の工夫 A. めあての設定 「何に気を付けて、何を聞けばよいのか」児童が分かりやすいように、端的な文章でめあてを示す。 B. 活動の設定 - スモールステップで学習できるように、事柄の数や補足の情報が段階的に増えるようにメモを取る活動を設定する。 C. 振り返りの設定 - 児童自身が到達度を確認められるように、活動ごとに大事なことを落とさずに聞くことができたかを振り返る時間を設定する。 - 授業の終末で、めあてが達成できたか、意欲的に活動できたかなどを短時間で振り返ることができるようにワークシートに自己評価を書かせる。 ②つまずきに応じた支援の工夫 D. 「話し手以外の児童が騒がしい」ことに関する手立て - 静かに話を聞いてほしい場面を知らせる合図を決めて、静かに話を聞けるようにする。 E. 「内容や使われている言葉が難しい」ことに関する手立て - 新城小学校に関する身近な内容をインタビューの内容として扱う。 - 児童が理解している言葉や表現を使って、メモを取る話の内容を考える。 - 数や順序を表す言葉を強調して話すなど、内容を捉えやすいようにする。 F. 「集中して話を聞くことができない」ことに関する手立て - メモを取る回数や徐々に難しくなっていくことを予告することで、学習の見通しを持たせる。 - 児童の集中できる時間を考慮し、活動を短く区切りながら学習を進める。 - 学習したことが他の活動でも生かせることを伝え、本時の学習への意欲付けを図る。

2 授業の流れ

	学習活動	指導・支援 () 手立てとの関連 □評価
導入 7分	1 前時までに学習したメモの取り方の工夫について振り返る。 2 本時のめあてを捉える。 話のまとまりに気を付けて、だいたいなことを落とさずに話を聞こう。	・静かにしてほしい場面を知らせる合図を確認する。(②-D) ・教科書P74「大山さんのメモ」の工夫を振り返り、メモを取る際の重要事項を確認する。重要事項は掲示し、確認できるようにする。 ・日常生活にも生かせることに触れ、メモを取る学習の必要性を感じさせる。(②-F) ・本時の目標に沿って、目指す姿が明確なめあてを提示する。(①-A) ・メモを取る活動が4回あり、徐々に内容が難しくなっていくことを予告する。(②-F)
展開 38分	3 事柄の数や順序に気を付けて、メモを取る練習をする。 ・3つの事柄のみを教師が話し、メモを取る。 〔質問1〕給食で人気のメニューは何か。 〔質問2〕職員室で借りることができる物にはどのような物があるか。 4 事柄と事柄に関する補足情報を加えた話を聞き、メモを取る練習をする。 ・2つの事柄と補足情報を教師が話し、メモを取る。 〔質問3〕新城小学校にはどのような教室があるか。 ・3つの事柄と補足情報を教師が話し、メモを取る。 〔質問4〕新城小学校のよいところは何か。	・「習った漢字を使う」「メモの例のとおりを書く」というのではなく、大事なことを落とさずメモを取ることが大切だと話す。 ・新城小学校に関する身近なことをインタビューの内容として扱う。(②-E) ・話の内容は、事柄の数や情報が徐々に増えるようにする。それに伴い、ワークシートは、メモ欄に番号や「・印」を付けてあるものから、番号や「・印」を児童が自分で書くものへと段階を踏むようにさせる。(①-B) ・質問をワークシートに書かせ、聞き取ることを意識させてから話を聞かせる。 ・全て書き写すのではなく、目的に合わせてメモを取ることをよい例と悪い例を示して確認する。 ・数や順序を表す言葉を強調して話したり、必要に応じてゆっくり話したりする。(②-E) ・ペアでメモの内容や書き方を比べたり、聞き取れなかったことを確かめたりさせる。後で書き加えたことは、赤ペンで加筆するようにさせる。 ・大型テレビにメモの例を映し、自分のメモの内容について振り返らせる。(①-C) ・メモの文章が長すぎる児童には、大事な部分を絞るように助言する。 話聞話のまとまりに気を付けて、大事なことを短い言葉でメモに書きながら聞いている。 (メモ・行動観察)
終末 5分	5 本時の学習を振り返り、次時の予告をする。	・めあてを達成できたかななどについて、◎○△で自己評価させるとともに、次時で気をつけたいことをワークシートに書かせる。(①-C) ・数名を指名して、振り返ったことを発表させる。 ・次時はチャレンジ問題をして、まとまりに気を付けてメモを取ることができるようになったか確かめることを伝える。

第3学年 国語科指導略案

授業者 教諭 村上 峻

日 時 令和元年9月11日（水）3校時

場 所 3年1組教室

1 授業について

単元名	グループで話し合おう （本時5/7）
本時の目標	司会の進行に沿って、意見の共通点や相違点に着目しながらグループで話し合い、考えをまとめることができる。
児童の実態	本時は、司会を立てた話し合いを実際に行う初めての場面である。児童は司会の役割や話し合いの進め方、考えのまとめ方などをこれまでに学習している。実際に話し合いを行う場面では、話し合いの進行や出された意見の内容に合わせて話す必要があり、既習事項を活用するには話し合いに慣れることが必要になる。そのため、司会・参加者ともにつまずきが見られ、話し合いがうまく進まないグループが出るのが予想される。本時では、まず自分の役割を果たしながら、司会を立てた話し合いに慣れさせるようにしていきたい。また、話し合いを振り返り、話し合いを円滑に進める方法や次回話し合いに向けて改善したいことも考えさせていきたい。
本時の授業づくりの主な手立ての工夫	①授業展開の工夫 A. めあての設定 ・司会、話し手、聞き手の立場で目指す姿が明確になるように、それぞれのめあてを設定する。 B. 活動の設定 ・児童にデモンストレーションをさせて、司会がどのように進行したり、意見をどのようにまとめたりしていくか、事前に確認する時間を設定する。 ・話し合いで決まった内容を実際の活動に反映させられるように、クラス遊びで行う内容を議題として取り扱って児童の意欲を高める。 C. 振り返りの設定 ・めあてに照らし合わせながら、それぞれの役割で、めあてが達成できたかを振り返らせる。 ②つまずきに応じた支援の工夫 D. 「間違えていないか心配」「緊張する」 ことに関する手立て ・自分の意見は、前時までにカードに書かせて、発表が心配な児童には教師が助言する。 ・司会の進行の仕方や意見の言い方の話型を示し、参考にして話せるようにする。 ・それぞれの意見について話し合う際には、話し合いの目的に向かって協力して考えをまとめていくことを事前に確認し、相手の意見の批判にならないようにする。 ・一緒に活動を行っている係活動のメンバーでグループを組ませることで、話しやすいグループ編成にする。 E. 「話し手の声が小さい」 ことに関する手立て ・グループの間につい立てを置いて、集中して話を聞ける環境をつくる。 ・声の物差しを示して、グループで話し合いを行う際の声の大きさを意識させる。 F. 「内容や使われている言葉が難しい」 ことに関する手立て ・話を聞き取ることやメモを取るのが苦手な児童が見て確認できるように、推薦する遊びの名前を事前にカードに書かせ、見せながら発表させる。

2 授業の流れ

	学習活動	指導・支援 () 手立てとの関連 □評価
導入 7分	1 前時までに学習したことを確かめる。 ・司会の役割。・話し合うときの順序。 ・司会や発言をするときに気を付けること。 ・本時で話し合う内容。 2 本時のめあてを確かめる。	・クイズ形式で問題を出し、短時間で既習事項を確認できるようにする。 ・話し合いは違った内容で2回行うことを確認する。 ・決まったことは、実際のクラス遊びに生かすようにさせ、意欲付けを図る。(①-B) ・それぞれの役割に応じためあてを提示する。(①-A) ・「まとめる」ことは、前時までに押さえを確認しておく。
	司会 一話す人を指名したり、意見を整理したりして、話し合いがまとまるように進行しよう。 話し手ー司会の進行にそって、自分の意見と理由を分かりやすく伝えよう。 聞き手ーにているところやちがうところなどを考えながら意見を聞き、自分の考えをまとめよう。	
展開 36分	3 話し合いの進め方やまとめ方等を全体で確認する。 ・それぞれの意見を出し合う。 ・質問や意見の共通点、相違点などを考えて意見を出す。 ・賛成が多かった意見をまとめる。など 4 グループで司会の進行に沿って話し合う。 ・グループで話し合いをする。 【議題】 ○みんなが楽しめるクラス遊び。 【話し合いの目的】 ○みんなが楽しめる遊びの内容を考える。 【話し合うこと】 ○どのような遊びをするのがよいか。	・どのように話し合いを進行し、グループの考えをまとめるか、模擬カードを使い、デモンストレーションをしながら確認させる。(①-B) ・話し合いで使う言葉の話し合いのプリントは、手元に置いて参考にしながら話せるようにする。(②-D) ・同じ係の児童でグループを組ませる。(②-D) ・互いの考えを尊重し、グループで協力して意見をまとめることを口頭で確認する。(②-D) ・声の物差しを示し、グループの話し合いの際の声の大きさを意識させる。(②-E) ・自分の考えを事前にカードに書かせ、必要に応じて教師が内容について助言しておく。(②-D) ・発表ではカードを見せながら話をさせる。(②-F) ・話し合いに集中できるように、つい立てでグループを仕切る。(②-E) 【話し合いの進め方】 話し手ー司会の進行に沿って話し合いを進め、意見の共通点や相違点などに着目しながら考えをまとめている。(発言・行動観察) 【聞き手ー】 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(発言・行動観察)
終末 7分	5 本時の話し合いについて、振り返る。 ・個人で振り返った後、グループで話し合う。 【振り返りの観点】 ○自分の役割のめあては達成できたか。 ○今日の学習でできたことや次に頑張りたいことは何か。	・めあてに照らして、それぞれの役割のめあてが達成できたかをノートに書いて振り返らせる。(①-C) ・数名の児童に発表させ、全体でも振り返りを共有する。 ・できたことや次回頑張りたいことも取り上げ、2回目の話し合いへの意欲付けをする。 ・次回話し合うことを確認し、次回までに自分の意見を考えておくように児童に知らせる。

第3学年 国語科指導略案

授業者 教諭 村上 峻

日 時 令和元年11月1日（金）3校時

場 所 3年1組教室

1 授業について

単元名	町について調べてしょうかいしよう（本時8/10）
本時の目標	聞き手に分かりやすい発表ができるように、言葉の使い方や話し方、資料の示し方を見直し、発表の仕方を工夫することができる。
児童の実態	実態調査では、話すときに難しさを感じることで「間違えていないか心配」「緊張する」という回答が多く挙げられ、自信を持って話せない児童が多いことが分かる。また、話を聞くとときに難しさを感じることで「話す人の声が小さい」といった回答が多かった。話し手が大きな声で話すことも必要であるが、周囲の声に話し手の声が消されてしまう様子も見られるため、話を聞き取りやすい環境を作るためのルールづくりが必要である。 普通の授業の様子では、分かりやすい言葉を選んだり、大事なところを強調して話したりするなど、分かりやすい話し方を意識している児童は少ない。また、聞き手としてどのようなことに気を付けて話を聞けばよいのか分からず、目的を持って話を聞くことができていない様子が見られる。 これらのことを踏まえ、話し手に対しては自信を持って話したり、分かりやすく話したりできるように手立てを講じていく。聞き手に対しては、どのようなことに気を付けて話を聞けばよいかを示し、友達にアドバイスを伝える役割を持たせ、目的を持って話を聞けるようにしていく。また、発表の声を聞き取りやすくできるようなルールづくりも授業の中に取り入れていく。
本時の授業づくりの主な手立ての工夫	① 授業展開の工夫 A. めあての設定 「本時で何ができるようになるか、学習の目的を明確にする」「児童に分かりやすい言葉や教科書で使われている言葉を使う」などを踏まえためあてを設定する。 B. 活動の設定 「めあてを踏まえて、諸活動の目的を明確にする」「児童が主体となって活動できるように、話す・聞く時間を多く設定する」などを踏まえた活動を設定する。 C. 振り返りの設定 「めあてと照らし合わせて振り返る」「何を、どのように振り返るか観点やキーワードを示す」などを踏まえた振り返りを設定する。 ② つまづきに応じた支援の工夫（㊦：話し手の手立て、㊧：聞き手の手立て） D. ㊦「適切な声の大きさ、速さ、話の長さになっていない」－「どのくらいが適切か分からない」に関する手立て - 発表例のCDを聞かせ、適切な声の大きさや速さなどのモデルにさせる。 E. ㊦「詳しく話せない」－「話をうまく組み立てられない」に関する手立て - 発表原稿を事前に書かせ、アドバイスをもらいながら付け足した方がよいことや話すときに気を付けることなどを書き込むようにさせる。 F. ㊦「緊張してうまく話せない」－「他の児童の反応が心配」に関する手立て - 自信を持って話せるように、グループでアドバイスを伝え合い、発表の仕方や内容を改善できるようにする。 G. ㊧「聞く意欲が低い」－「目的を持って話を聞いていない」に関する手立て - 聞き手がアドバイスを伝える役割があること、その役割の重要性を確認し、アドバイスを伝えるという目的を持って話を聞けるようにする。 H. ㊧「内容を正しく理解できない」－「話のどこが大事なのか分からない」に関する手立て - アドバイスシートを準備し、観点を明確にして話を聞けるようにする。 I. ㊧「話に集中できない」－「周りに気を取られる」に関する手立て

2 授業の流れ

	学習活動	指導・支援 () 手立てとの関連 □評価
導入 7分	1 本時のめあてを捉える。 聞き手に分かりやすく発表できるように、話し方やしりょうの出し方をくふうしよう。 (①－A) 2 聞き手に分かりやすく発表するとき に気を付けることを確認する。 ・大事な言葉はゆっくり、大きな声で強調して話す。 ・聞き手に分かりやすいように説明を足したり、みんなが知っている言葉に言い換えたりする。 ・資料を見るための時間を取る。 など	・本時の聞き手は同じグループの友達であることを確認する。 ・全体での発表に向け、話し手が分かりやすい発表を行うためには、聞き手のアドバイスが大切であることを伝える。(②－G) ・発表例として、指導用CDの音声を聞かせ、適切な速さや間の取り方、聞き手の興味を引く呼びかけの仕方などを具体的に理解できるようにする。(②－D) ・発表するときには気を付けることは、黒板とアドバイスシートに示し、発表練習をしながら確認できるようにする。(②－H) ・教科書の例を参考に、事前に書いた自分の発表原稿に工夫することを書き込むことを確かめる。(②－E)
展開 分	3 前時までに準備した発表原稿を使ってグループで発表し、アドバイスを伝え合う。(①－B, ②－F) ・グループは3～4人の8グループの編成にする。 ・発表練習とアドバイスを伝える順番は、教師が指示する。 ・発表とアドバイスを繰り返す。 4 アドバイスを基に発表内容や発表の仕方を修正して、各自練習を行う。(①－B, 主活動) ・アドバイスを基に、発表における自分の課題を決める。 ・どのように工夫するかを考え、発表原稿を修正する。 ・声に出して各自発表練習をする。	・聞き手が発表の声を聞き取りやすいように、時間で活動を区切り、発表練習の時間とアドバイスを伝える時間を分けて行うようにさせる。(②－I) ・発表を聞いた後に、聞き手がアドバイスシートに評価を付け、それを基にアドバイスを伝えるようにさせる。(②－H) ・アドバイスを伝える際、改善が必要なことだけでなく、よくできていたことや自分が手本にして取り入れたいことも伝えるようにさせる。 ・口頭で聞き手が発表者に伝えきれなかったことは、アドバイスシートを見て、各自確認するようにさせる。 ・話されたことやアドバイスシートに書かれたことを基にして、自分の課題を明確にさせる。 ・発表を大幅に変えるのではなく、アドバイスの中からできそうな事を取り入れるようにさせる。 ・必要に応じて、再度グループ内で発表練習を聞き合ってもよいことにする。その際は、騒がしくならないように、適切な声の大きさを活動に入る前に確認する。 話聞聞き手に分かりやすいように、言葉の使い方や話し方、資料の見せ方などを工夫して話している。(行動観察、発表原稿)
終末 5分	5 本時の学習を振り返り、次時の予告をする。(①－C) 【振り返りの観点】 ・聞き手に分かりやすく発表できるように、話し方や資料の出し方を工夫できたか。(◎○△の記号) ・本時でできたこと。(文章で記述) ・次回の発表で頑張りたいこと。(文章で記述)	・振り返りはノートに書くようにさせる。 ・何を振り返るかの観点を示し、めあてとつながりのある振り返りを行えるようにする。 ・話を聞く場面では、周りが騒がしくなっていなかったかについても触れ、できた場合は継続していきけるように励ます。 ・数名を指名して、振り返ったことを発表させる。 ・次回は全体での発表を行うことを予告し、家庭学習でも練習しておくように伝える。